

# 2009年3月期第2四半期連結決算内容

(2871)

**株式会社ニチレイ**

【お問合せ先】

広報IR部 田中 久

TEL: 03-3248-2235

E-mail: [tanakah@nichirei.co.jp](mailto:tanakah@nichirei.co.jp)

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

# 増収・増益の畜産・水産が加工食品をカバーし営業増益に

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

## 2008年第2四半期累計の連結業績

単位:金額=億円(未満切捨て)	07/9	08/9(前回E)	08/9	08/9対07/9比較	
				増減額	増減率
売上高	2,310	2,379	2,428	117	5.1%
営業利益	79	89	90	10	13.7%
経常利益	77	81	86	9	12.5%
四半期純利益	47	37	39	-7	-16.5%

1. **売上高** 08/9(前回E)・・・2008年第2四半期累計見込は7月29日に発表したもので5月13日と変更なし

①不動産を除く全事業で増収。鶏肉が好調な畜産で07/9比17%の大幅増収に加え、低温物流は海外が好調で5%の増収、水産も「たら・かれい」などの北方凍魚が牽引し3%の増収となった。加工食品は中国のチキン製品輸出停止やアセロラの不振で2%の増収に止まる。

## 2. 営業利益

- ①加工食品は調理品では原材料コスト上昇を値上げやTV広告の圧縮でカバーしたものの、アセロラの不振や営業費の増加により07/9比5億円の減益。
- ②水産は、エビの市況安定により採算性改善が進んだことと営業費の圧縮で07/9比11億円の大幅増益。
- ③畜産は鶏肉、牛肉、豚肉共に収益に寄与し07/9比4億円の増益。
- ④低温物流は欧州の取扱い拡大が牽引するが、ネットワーク事業の燃油コスト増負担が厳しく、全体では前年並みに。

## 3. 経常利益

①リース会計基準適用に伴う支払利息増加と棚卸資産引落損の営業原価算入による減少で07/9比1億円の営業外費用増。

## 4. 四半期純利益

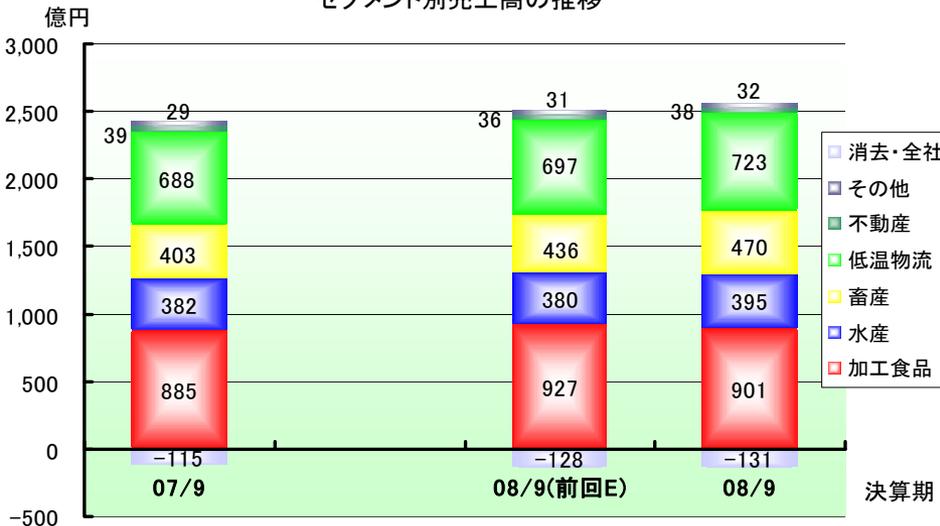
①特別損益はリース会計基準の適用に伴う影響額で17億円の損失が発生。

# 加工食品はアセロラの不振が響き減益に

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **N**ニチレイ

## セグメント別売上高と営業利益(その1)

セグメント別売上高の推移

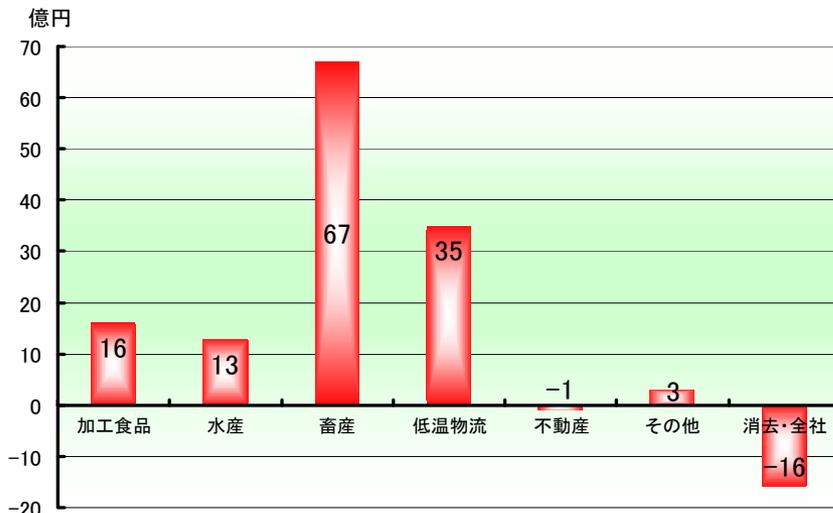


### 1.加工食品

Q: 四半期のこと、2Qは第2四半期

売上高は全体では07/9比2%の増収。業務用調理冷食は2Qに中国のチキン製品輸出停止により一時的に伸び悩んだものの1Qの大幅増収により8%の増収。家庭用調理冷食は餃子事件の影響はあったものの市場でのシェアが上昇し1%の減収にとどまる。アセロラはリニューアル後の不振が響き22%減収。営業利益は全体では5億円の減益。上期のコスト上昇分は値上効果やTV広告の圧縮で吸収したが当初増益を見込んでいたアセロラの減益や営業費の増加が影響した。

セグメント別売上高対前期比増減額



### 2.水産

売上面では「たら・かれい」など北方凍魚、利益面ではエビが貢献し、売上高で07/9比3%、営業利益で11億円の増収・増益となった。前年同期と比べ環境に後押しされエビのコストが適正化したことと再生プランで商品構成見直しとコストダウンの成果が現れてきたことが増益の要因。

### 3.畜産

07/9比で17%の大幅増収、営業利益は4億円の増益。海外産を主とした鶏肉需要の増加に加え、牛肉や豚肉の収益性改善も寄与した。

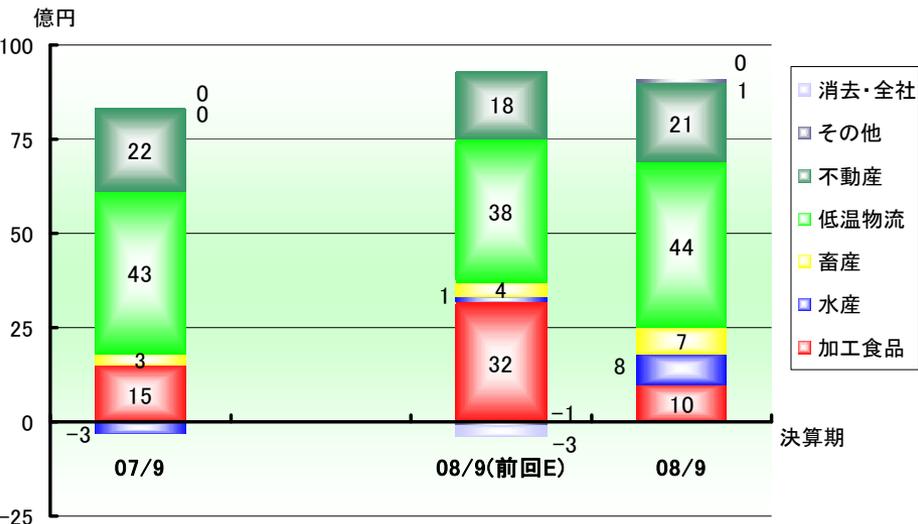
(以下、グラフの金額単位表示未満は四捨五入し一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている)

# 低温物流は引き続き好調な海外が牽引

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

## セグメント別売上高と営業利益(その2)

セグメント別営業利益の推移



### 4. 低温物流

売上は畜産物、冷凍野菜の集荷が好調な欧州事業が07/9比13%と牽引した。国内は地域保管で4%、CVSや青果等新規の取組みが寄与した物流ネットワークで3%の増収となり全体では5%の増収。営業利益も欧州が牽引したものの物流ネットワークは燃油負担増が重く地域保管も経費増などで前年を割っており、全体では前期比微増益に止まる。

### 5. 不動産

牛久市の戸建分譲、長崎市や千葉市所在の土地販売を行なったが、07/9比では分譲案件が減少した結果、営業利益は前年を下回った。

セグメント別営業利益対前期比増減額



# 業務用が売上牽引し家庭用も前年近い水準まで回復

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。ニチレイ

## 冷凍食品売上高

### 1. 冷凍食品全般

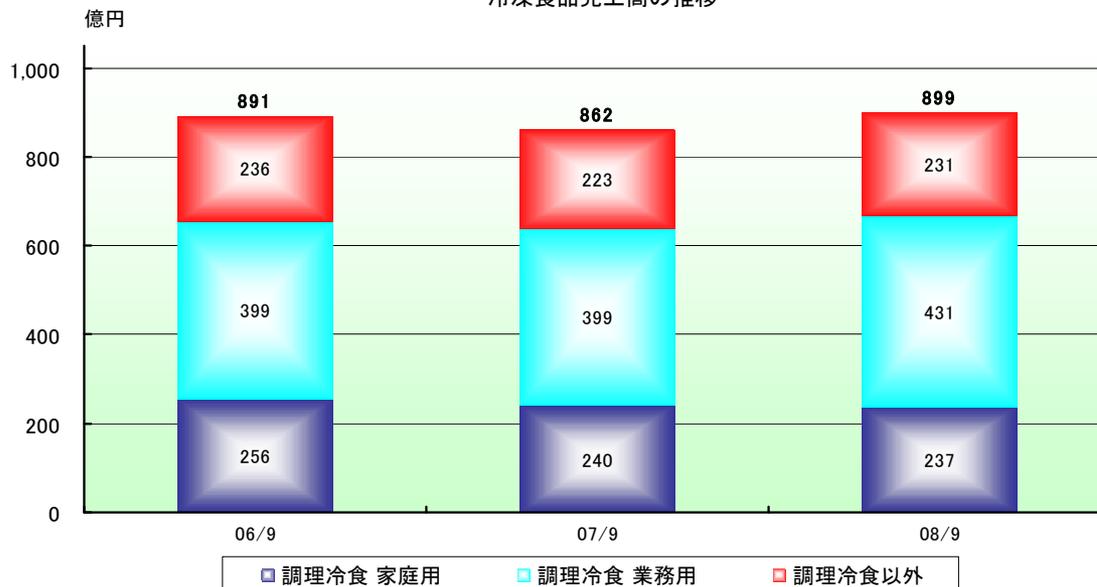
07/9比4%の増収。調理冷食は業務用が8%増と大きく伸長し、家庭用も餃子事件の影響を受けつつも1%減まで回復が進んだ。調理冷食以外では冷凍野菜の回復が進み4%の増収となった。

### 2. 調理冷食

①家庭用: 07/9比1%の減収。1Qで▲1.5%、2Qで▲0.9%とほぼ前年並みの水準まで回復。マーケットシェアも餃子事件を境に上昇。商品別には主力お弁当商品の「パリパリの春巻」が伸長した一方、内食回帰の影響を受けたおにぎり等の米飯類は減少した。

②業務用: 07/9比8%の増収。中食市場を中心にチキン、ポテト製品で売上を伸ばす。1Qは15%増と大きく伸びたものの、2Qは中国当局によるチキン加工品の輸出停止に伴う在庫払底により1%増に止まったが、11月以降は供給は回復する見込み。

冷凍食品売上高の推移



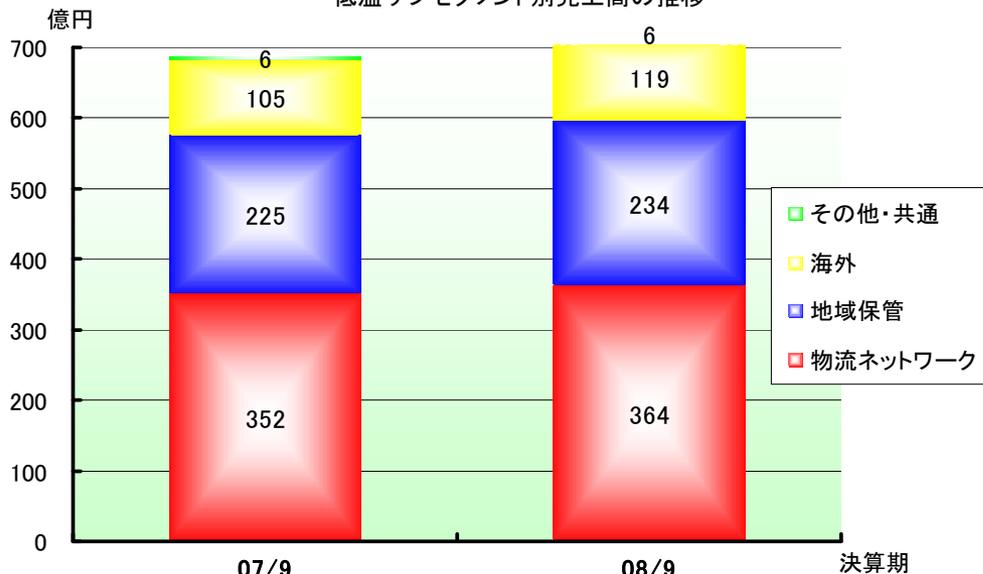
(注)  
日本冷凍食品協会定義に  
基づく冷凍食品の売上高で  
水産・畜産事業の取り扱う  
冷凍食品売上高を含む

# 海外は好調に推移するもネットワークはコスト増に苦戦

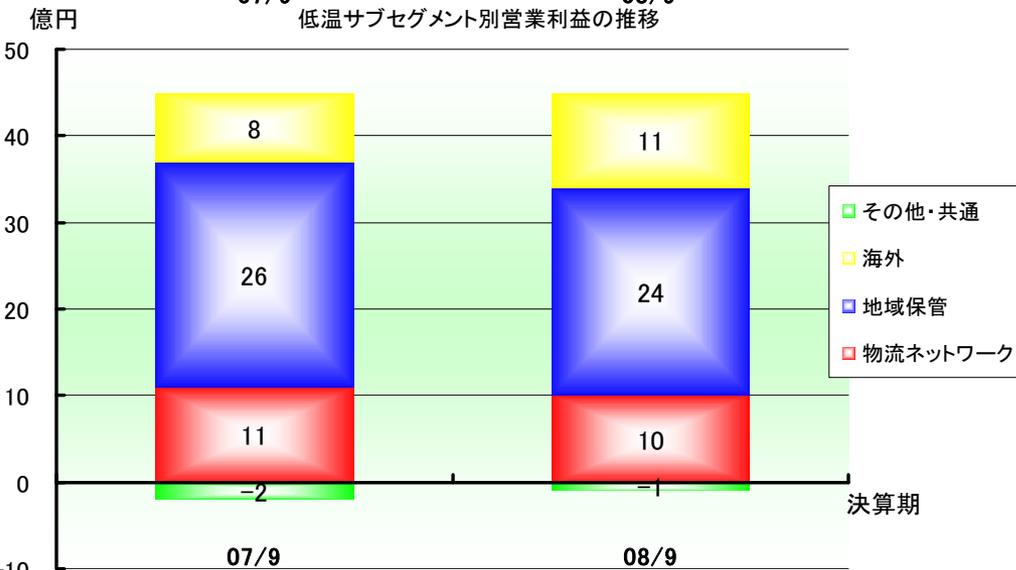
「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

## 低温物流事業の対前期比増減の要因

低温サブセグメント別売上高の推移



低温サブセグメント別営業利益の推移



### 1. 海外

集荷対策を進めた結果ブラジルのチキンパッカー等の貨物が順調に搬入され高い在庫率を確保できた。また輸配送も引き続き好調で07/9比13%増収、3億円増益となった。

### 2. 地域保管

厳しい業界環境が続く中で、地域に密着した営業活動の継続により在庫率は前年水準を維持した。売上高は07/9比4%増収、営業利益はセンター増設による一時費用負担もあり1億円の減益となったが、当初見込みを上回ることができた。

### 3. 物流ネットワーク

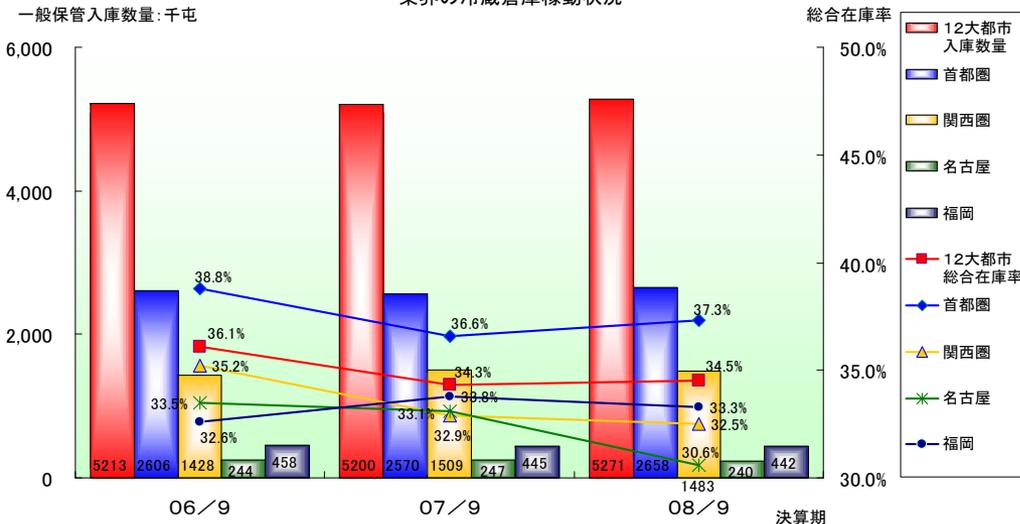
売上高はCVS、青果、百貨店等の取組みで伸ばし07/9比3%の増収となるが、営業利益は2Qがピークとなった燃油コスト上昇をサーチャージ制でカバーしきれず、1億円の減益。

# 総合在庫率は業界・ニチレイグループとも07/9比横這い

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。ニチレイ

## 冷蔵倉庫の稼働状況

業界の冷蔵倉庫稼働状況



(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)

### 1. 業界の状況

畜産物の在庫量が大きく減少した昨年度から、首都圏で入庫量、在庫率とも増加。

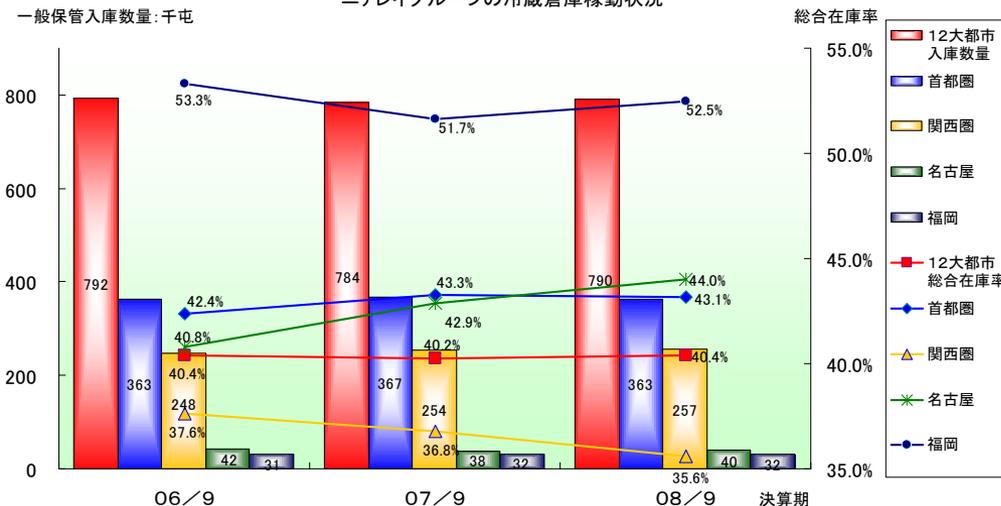
### 2. ニチレイグループの状況

地域密着営業による集荷を徹底し、在庫率は前年水準を維持した。

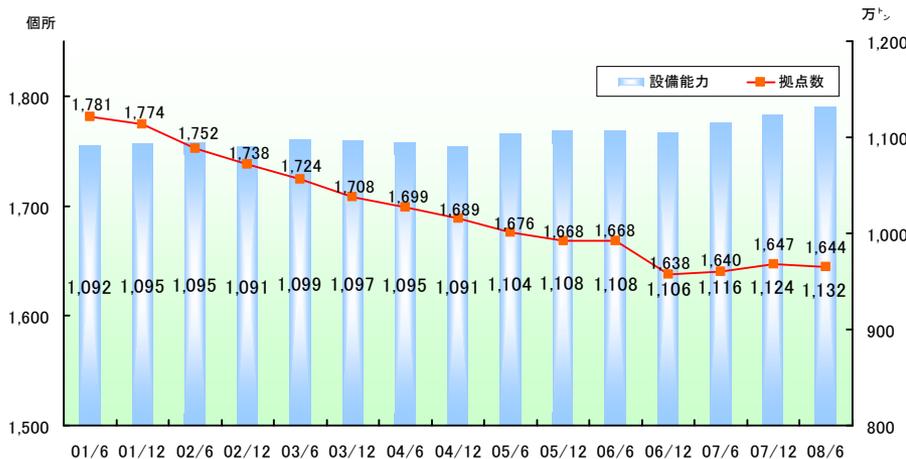
### 3. 業界の設備能力

拠点数は横這いだが、設備能力は微増。

ニチレイグループの冷蔵倉庫稼働状況



冷蔵倉庫業界収容容積推移



(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)

# リース会計基準変更により総資産が増加

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。  ニチレイ

## 08/9期連結バランスシートの変動要因

単位：億円（未満切り捨て）

科目	08/3	08/9	増減	
<b>〔資産の部〕</b>				
流動資産	1,030	1,160	129	①
固定資産	1,547	1,776	228	②
資産の部合計	2,578	2,936	358	
<b>〔負債・資本の部〕</b>				
流動負債	812	1,228	416	③
固定負債	600	528	-72	③
負債の部合計	1,413	1,756	343	
純資産の部	1,164	1,179	14	
（うち株主資本）	1,073	1,089	15	
（有利子負債）	661	752	91	
<b>科目</b>	<b>07/9</b>	<b>08/9</b>	<b>増減</b>	
（設備投資額）	28	52	24	④
（減価償却実施額）	46	49	2	

### 【主な要因】

- ① 季節要因により売上債権が79億円、棚卸資産も59億円増加。
- ② リース会計基準変更によりリース資産が206億円増加。
- ③ リース債務が239億円増加、売上債権や棚卸資産の増加に対応し短期借入金が増加、社債を50億円償還し、一年以内償還社債を固定から流動負債に振替え。
- ④ 設備投資の主なもの。

### 【低温物流】

キョクレイ山下DC建替  
ニチレイロジ中国松江DC増設  
ヒワ・ロッテルダム冷蔵倉庫増設

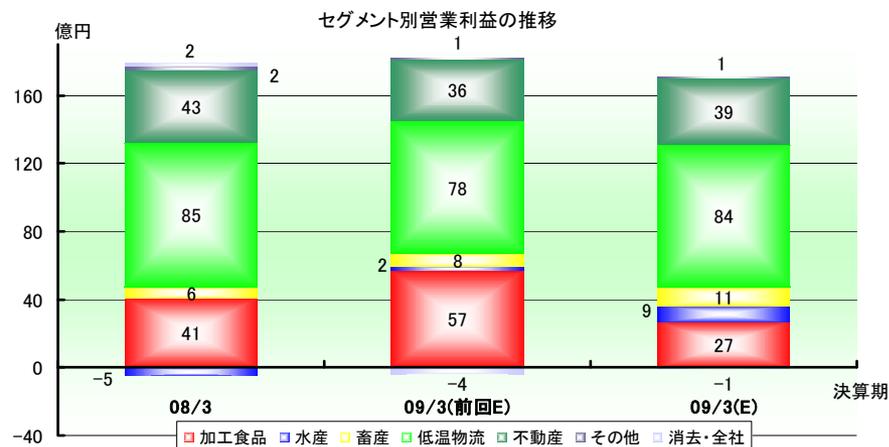
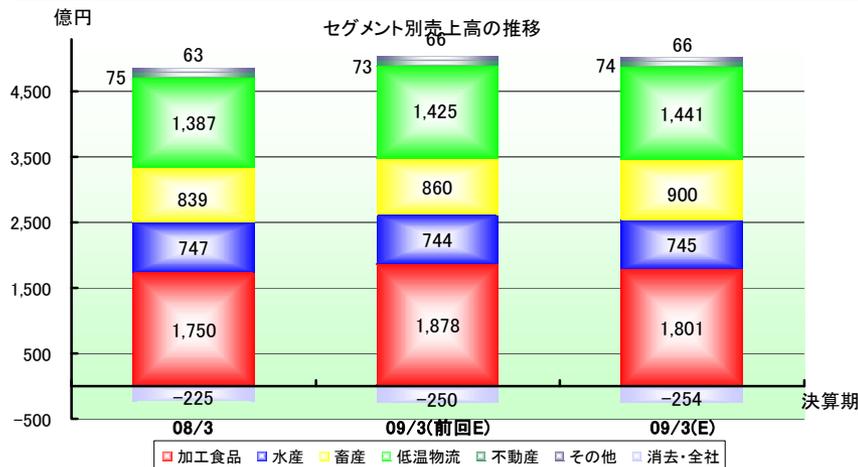
# 事業環境の悪化により売上・利益を下方修正する

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

## 2009年3月期の連結業績見込み

単位:金額=億円(未満切捨て)	08/3	09/3(前回E)	09/3(E)	09/3(E)対08/3比較	
				増減額	増減率
売上高	4,635	4,796	4,773	137	+3.0%
営業利益	173	178	170	-3	-2.0%
経常利益	168	162	160	-8	-5.3%
当期純利益	96	90	77	-19	-20.0%

09/3(前回E)は7月29日に発表したもの



- 加工食品は売上・営業利益とも下方修正する。原材料費の上昇が当初想定以上に進み値上げで吸収しきれないことと、アセロラの不振、営業費の増加が響く。「いんげん」関連の利益減は4億円を見込む。
- 水産・畜産は上期見込超過分を上方修正。市況軟化が見込まれる下期は当初計画通りと慎重な見方。
- 低温物流は引き続き海外が好調に推移、地域保管も前年並みを維持し全体では当初見込みを上回る。
- 経常利益の下方修正に加え特別利益も土地売却益13億円の見込みが白紙となり当期純利益も修正。8

# 特別損益はリース会計基準適用に伴う影響額17億円計上

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位：億円、単位未満切り捨て プラス表示は利益を示す		2Q累計					通 期			
		08/9	07/9	増 減			09/3 今回E	09/3 当初E	08/3	増 減
<b>【営業外収支】</b> (主要項目)		-3	-2	-1	<b>【営業外収支】</b> (主要項目)		-10	-16	-4	-5
金融収支	①	-5	-2	-2	金融収支	④	-12	-19	-6	-5
持分法投資損益		+0	+1	-0	持分法投資損益		+2	+3	+3	-1
<b>【特別損益】</b> (主要項目)		-23	-0	-22	<b>【特別損益】</b>	⑤	-30	-7	-4	-25
固定資産売却益	②	+0	+6	-6						
リース会計基準の 導入に伴う影響額	③	-17	0	-17						

09/3(当初E)は5月13日に発表したもの

- ① 支払利息でリース会計基準適用に伴い3億円が増加
- ② 07/9はTENGU社保有資産売却益5億円を計上
- ③ リース会計基準適用に伴う影響額17億円を計上(当初見込み比2億円増)
- ④ 金利が想定より低水準で推移し支払利息は当初Eに対して6億円減少
- ⑤ 当初Eに織り込まれていた土地売却益13億円が発生しないこととなり修正、事業所閉鎖損失の発生などもあり特別損益は当初比23億円のマイナス

# データ集

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

## セグメント別売上高・営業利益の実績・見込・前回見込・前年実績

単位:億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	第2四半期累計			下期			通期		
	09/3		08/3	09/3		08/3	09/3		08/3
	実績	(前回E)		(E)	(前回E)		(E)	(前回E)	
<b>(売上高)</b>									
加工食品	901	927	885	900	951	865	1,801	1,878	1,750
水産	395	380	382	350	364	365	745	744	747
畜産	470	436	403	430	424	436	900	860	839
低温物流	723	697	688	718	728	699	1,441	1,425	1,387
不動産	38	36	39	36	37	36	74	73	75
その他	32	31	29	34	35	34	66	66	63
全社または消去	-131	-128	-115	-123	-122	-110	-254	-250	-225
合計	2,428	2,379	2,311	2,345	2,417	2,325	4,773	4,796	4,636
<b>(営業利益)</b>									
加工食品	10	32	15	17	25	26	27	57	41
水産	8	1	-3	1	1	-2	9	2	-5
畜産	7	4	3	4	4	3	11	8	6
低温物流	44	38	43	40	40	42	84	78	85
不動産	21	18	22	18	18	21	39	36	43
その他	1	-1	0	0	2	2	1	1	2
全社または消去	0	-3	0	-1	-1	2	-1	-4	2
合計	91	89	80	79	89	94	170	178	174

注:(E)は今回発表した見込数値、前回(E)は7月29日に発表した見込数値

# 当資料取扱い上のご注意

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 ニチレイ

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果  
など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。